



アニュアル レポート

Annual report

2017

特集 1

大学・専門家と連携した
発達障がいがある
子どもの支援モデル

特集 2

子ども支援団体に共通の
課題解決を支援する試み

特集 3

小学生向け
情報モラル啓発教室の
開発・普及



CONTENTS

- 3 — 特集 1…大学・専門家と連携した
発達障がいがある
子どもの支援モデル
- 7 — 特集 2…子ども支援団体に共通の
課題解決を支援する試み
- 11 — 特集 3…小学生向け
情報モラル啓発教室の
開発・普及
- 14 — 2017 年度活動概況と 2018 年度方向性
- 18 — 2017 年度助成団体一覧
- 21 — 2017 年度決算報告
- 22 — 団体概要



未来ある子どもたちが 安心して自らの可能性を広げられる社会を目指して

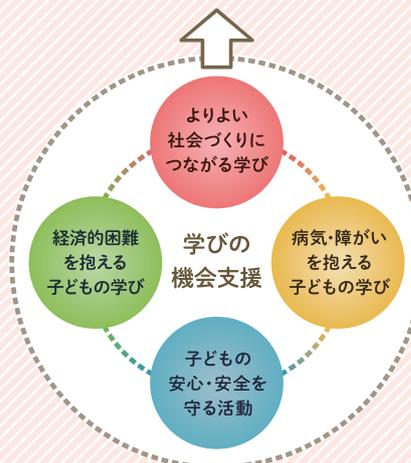
ベネッセこども基金は、「未来ある子どもたちが安心して自らの可能性を広げられる社会」の実現を目指し、2014年10月31日に一般財団法人として設立、2015年4月1日に公益財団法人に移行しました。

教育を事業領域の柱とするベネッセグループが設立した財団として、子どもの学びの機会支援に取り組みます。

子どもが安心して学べる環境づくり、経済的困難や病気・障がいなど、学びに課題を抱える子どもたちの支援に取り組みながら、さらに、課題解決支援に留まらず、よりよい社会づくりを担う子どもたちを育む学び支援にもトライしていきます。

私たちは、子どもたちが自ら学ぼう、伸びようとする力を信じています。その力が十分に発揮できるよう、取り組みを進めてまいります。

子どもが自らの可能性を 広げられる社会





理事長ごあいさつ

2017年度は、当財団にとって公益財団法人として3年目にあたる年でした。

子どもの学びの機会支援をミッションとする当財団は、自主事業と助成事業を組み合わせながら活動を行っています。

病院、大学、NPO、企業等、さまざまなセクターとの連携による学びのモデルづくりは、当財団の活動の特長です。また、子どもの実態をふまえた、学びのプログラムやコンテンツの企画開発力が大きな強みであり、その強みを評価していただき、協業のご提案をいただくことも増えてまいりました。

京都府警察本部の皆さまのご協力のもと開発しました「初めてのスマホ安心ガイドブック」は、まさにそのような取り組みの成果と考えています。

また、助成活動においても、助成団体の皆さま相互のノウハウ共有やネットワークづくりのサポートなど、当財団らしい取り組みとして定着してきたと感じています。現場の実感や課題を把握しながら、よりよい助成事業のあり方を目指します。

2018年度は、この3か年の成果をベースに、さらに事業を広げ、展開してまいります。皆さまからの変わらぬご支援・ご指導を何卒よろしくお願い申し上げます。



公益財団法人
ベネッセこども基金
理事長
五十嵐 隆



特集

1

大学・専門家と 連携した 発達障がいがある 子どもの支援モデル

東京藝術大学COI拠点、
NPO法人ADDSとの三者連携により、
保護者のサポートにもつながる
ワークショップを開発・展開しています。

音と光の動物園

子どもたちが作った
ペーパークラフトの
動物たちが
映像の中で動き出す！

子どもと保護者をともに支援できる 楽しいワークショップを

発達障がいがある子どもとその保護者を対象としたワークショップ「音と光の動物園」。2016年から開催し、これまで3回実施しています。2017年度は、横浜み

なとみらいホールとの共催で、初めて大学施設以外の会場での開催を実現しました。今後も自治体や地域の音楽ホール等との連携による展開を目指します。

INTERVIEW

障がいの有無にかかわらず芸術を楽しめる場を作りたい



東京藝術大学 COI 拠点
「障がいと表現研究」
グループリーダー・特任教授
新井 鷗子さん

私たち「障がいと表現研究グループ」では、「障がいから学ぶ」をキーワードに、芸術を通してすべての人々が夢をもって生きられる共生社会の実現を目指し、研究を重ねています。さまざまな障がいを対象とする研究活動の中で、発達障がいがある子どもたちが音楽や美術に触れたときの反応の大きさや、子どもたち自身の表現力や創作のパワーに驚かされ、彼らの居場所をつくるのが芸術の役割なのだと思うに至りました。

「楽しく学ぶ」という経験を多くの子どもたちに体験してもらおうと、「音と光の動物園」では、子どもたちの自発性を引き出すデジタルアートや打楽器体験など多彩なコンテンツを用意し、発達段階や障がいにかかわらず、親子で一緒に参加できる空間づくりを目指しています。2017年度は初めて大学施設以外の会場での開催にチャレンジしました。2018年度も横浜や金沢での開催を予定しており、ワークショップのさらなる広がりを目指します。

視覚・聴覚・触覚で楽しめる“共感覚”な遊び、学びの体験を



東京藝術大学
大学院映像研究科
メディア映像専攻 教授
桐山 孝司さん

「共感覚メディア研究グループ」では、遊び、学びを活性化することを目的に、映像やセンサー技術を駆使して五感を刺激するシステムを作っています。

発達障がい支援ワークショップでは、映像や音を組み合わせた作品を取り入れ、子どもたちが実際に触ったり、聞いたりできるインタラクティブなコンテンツを提供しています。ADDSやベネッセこども基金の皆さんか

らのアイデアをもとに、擬音語の文字にタブレット端末をかざすと動物が現れるARアプリも開発しました。子どもたちの反応がとてもよかったことに勇気付けられるとともに、このアプリは障がいにかかわらず、広く学びにつながる可能性を感じています。

ワークショップを通じ、映像や音の体験による共感覚的な学びの普及に取り組んでいきます。

子どもの可能性を広げる“最高に楽しい”プログラムを目指して



NPO 法人 ADDS 理事
研究開発・情報発信事業部
統括
加藤 愛理さん

「発達障がいあるいはその疑いのあるお子さまとご家族が、早期に適切な支援を受けることにより、お子さまの可能性を最大限に広げることができる」。その理念のもと、ADDSは療育支援に取り組んでいます。

プログラムを検討する際には、これまでの療育や支援活動の経験に基づき、多様な発達段階にある子どもたちが楽しめる空間になるよう、アイデアを出しました。子どもと保護者が一緒に参加できるワークショップはあま

りないため、この活動に大きな価値があると思ひ、保護者にとっても学びや気づきが得られるような工夫を心がけました。

実際に参加された方からは、「周りのお子さんから刺激を受けたようで、自発的に取り組む様子が見られた」などのお声をいただいています。このワークショップが子どもたちにとって最高に楽しい場所であるとともに、可能性を広げるきっかけとなることを願っています。

三者の強みを生かした、 子どもの可能性を広げるプログラムづくり

本ワークショップは東京藝術大学COI拠点、NPO法人ADDS、ベネッセこども基金との三者連携により、開発されました。東京藝術大学のクオリティの高い音楽・映像、ADDSの療育の専門性、当財

団の子ども向けコンテンツ開発の知見が融合したプログラムです。

それぞれの強みを生かし、開催地域の団体とも連携しながら、さらなるブラッシュアップを重ねています。

芸術（音楽・映像）の
知見／リソース

療育や保護者への
サポート実績／ノウハウ



連携

公益財団法人
ベネッセこども基金

子ども向けコンテンツ
開発の知見／ノウハウ

※東京藝術大学COI拠点とは：東京藝術大学は2015年から文部科学省・JSTによりCOI（センター・オブ・イノベーション）の拠点に認定され、芸術を社会に役立てるための研究を重ねています。

ワークショップの 内容と特長

「親子で楽しむインタラクティブなワークショップ」をテーマに、音楽と映像で表現された動物たちの世界が子どもたちの五感に働きかける本プログラム。2017年9月16日に横浜みなとみらいホールで開催した際の様子とともに、プログラムの特長をご紹介します。

まずは……

動物をかたどったペーパークラフト作り



ライオンやペンギンなど、さまざまな動物の型紙を自由にデコレーション。色を塗ったり、シールを貼ったりして飾りつけをしながら、オリジナルのペーパークラフトを作ります。

ここがPoint!

塗る・切る・貼るなど
さまざまな作業を通して、
視覚と触覚に働きかけます。



タブレット端末を使って
ペーパークラフトを
画像として取り込む



作品を映像化している間……

子どもたちはデジタルアートと 打楽器を体験

ドラムサークル

自由にたたく中で
徐々にリズムが
生まれる



全員で輪になって、音の強弱や進行の合図や動きに注意しながら打楽器を演奏。周囲を意識する感覚を、楽しくリズムを作りながら体験します。

協力：株式会社ヤマハミュージックジャパン 音楽の街づくり

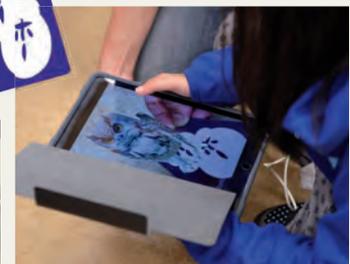
AR アプリ

「この音なあに？」



動物の鳴き声などの擬音語・擬態語が書かれたカードにタブレット端末のカメラをかざすと、音とともにその動物が画面に出現！10種類の動物を見つけるスタンプラリーのような遊びを楽しめます。

現れたフクロウを
タッチすると「ホーホー」
と鳴くしかけ



ここがPoint!

言葉の「読み」と「意味」を
結びつける（等価理解）を
楽しく学べるアプリ。
東京藝術大学の映像技術を
活かし、開発されました。

保護者の皆さんは カフェタイムで情報交換

子どもたちが自由に遊んでいる間、保護者たちは別室へ。お茶を飲みながらリラックスした空間で、情報交換をしたり、発達に関するアドバイスなどを聞く時間をもちます。

先輩ママのお話
に聞き入る
保護者の皆さん



そして……

音楽と映像のコンサート

サン＝サーンス《動物の謝肉祭》の演奏に合わせて、子どもたちが作ったペーパークラフトの動物たちが映像の中で動き出します。



「獅子王の行進曲」に合わせて走るライオンたち

参加した保護者からの声

障がいの程度に関係なく一緒に楽しむことができました。特に、コンサートは親も癒された時間となりました。



ボリュームといい、質といい、とてもバランスのとれたワークショップだと思いました！ぜひ定期的に開催していただきたいと思います。本日は楽しいひとときを、親子共々ありがとうございました！



ここがPoint!

自分の作品が映像化され、一つのコンサート作品として完成することにより、達成感が得られる構成になっています。

地域での継続的な 支援を目指して

ワークショップを一日限りの楽しい体験で終わらせないよう、継続的な支援の可能性も模索しています。

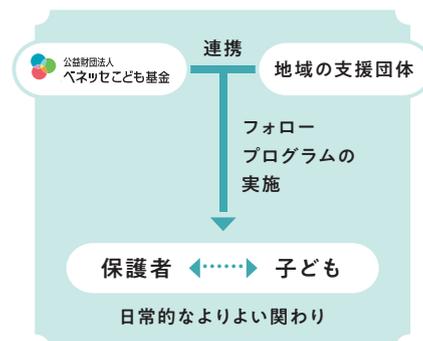
開催地域で活動する地元の支援団体と連携し、ワークショップに参加した保護者の方向けのフォロープログラムを開催するなど、地域で支援が継続するようなモデル作りに取り組んでいます。2018年3月には、横浜市を中心に活動するNPO

法人アントワープカウンセリングオフィスと連携し、横浜で開催した「音と光の動物園」に参加した保護者の方を対象にフォロープログラムを提供しました。

ワークショップをきっかけに、地域において保護者の方の子どもへのよりよい関わりをサポートするような、支援の枠組みの創出を目指しています。

音と光の動物園

開催後も…



地域に根差した継続的な支援

子ども支援団体に共通の 課題解決を支援する試み

ユースソーシャルワークみやぎとの共同事業として、
「子ども支援の現場を担う人材の確保や育成」に、
「団体協働型」で取り組むモデルづくりへのトライアルを始めました。



複数の団体との協働で、 子ども支援の環境づくりを加速する

助成事業を通して、全国の子ども支援団体とのつながりが生まれる中で、現場を担う若手人材の確保と育成は多くの団体に共通の大きな課題であると認識しました。この課題意識を背景に、2017年に

宮城県で設立された「ユースソーシャルワークみやぎ」との共同事業として、「子ども・若者を支える支援者の養成および支援者間のネットワーク・コミュニティ創出・モデル化事業」がスタートしました。

子ども・若者を支える支援者の養成および 支援者間のネットワーク・コミュニティ創出・ モデル化事業

若手人材の確保と育成で
子ども支援をさらにサポート



事業の枠組み

子ども支援の現場の共通課題に対して、当財団自ら、課題解決のモデルづくりに参画。



宮城県内の3団体（TEDIC、アスイク、チャンス・フォー・チルドレン）が中心となり、リソースを補い合い地域で人材育成を進める枠組みとして、任意団体「ユースソーシャルワークみやぎ」を設立。育成企画の立案と運営を推進。

ベネッセ子ども基金は、他エリアでの展開も視野に、活動のモデル化やノウハウの共有、社会発信を推進。

事業の背景

年間を通じた、助成団体訪問や交流会の実施などにより、団体共通の課題を把握。重要課題については自主事業としても取り組む。

助成事業を通じた 団体とのコミュニケーション

応募内容分析、助成団体訪問、
助成団体交流会等、年間を通じて実施



団体共通の課題把握

- 子どもの抱える課題の複雑さ
・ 貧困 ・ 虐待 ・ いじめ
・ 不登校 ・ 発達状況 など
- 対応できる人材の不足
- リソースの不足・偏りによる、
個別の団体での対応の難しさ
など

共通課題への取り組み

本共同事業

「子ども支援の現場を担う
人材の確保や育成」に、
“団体協働型”で取り組む
モデルづくりへのトライアル

INTERVIEW



ユースソーシャルワークみやぎ
代表幹事
NPO法人TEDIC 代表理事
門馬 優さん

地域で連携し、担い手を育てていきたい

地域に根差した活動を続けるなかで、受け取る子どものSOSも増えてきました。今よりもっと多くの子どもに声に応えるために地域の人的リソースを拡大したいという思いを持つ一方で、一団体だけの活動では限界があることも感じていました。ならば、思いを同じくする団体は他にもあるのでは…と地域内の

団体間の対話を進めるなかで、若手支援者の拡充と支援力育成、団体を越えた横の繋がりを意識した今回のスキームを実現できました。

今後は、支援者のキャリア支援も意識しながら、このコミュニティを育てていきたいと考えています。

共同事業の柱（研修事業） 「ユースソーシャルワーカー 養成講座」

本事業では、広域にわたる宮城県内の子ども・若者支援の基盤づくりを意識し、団体の現場を支え、時に孤独にもなりがちな若手人材の日々の活動のサポートに焦点を当てた研修事業が柱となりました。

概要

●実施時期／回数：
2017年9月～2018年3月／
毎月1回・計7回

●事業の狙い：

- ①困難を抱える子ども・若者を支えるワーカー育成
- ②若手の人材間のネットワーキング

●内容：

他地域で先行事例を持つ団体の方を講師に迎えた講座と、参加者同士がグループに分かれてそれぞれのケースを検討しあう実践ワークの2部構成

日程	研修内容・講師	※敬称略
第1回 2017年9月17日（日）	オープニングガイダンス、チームビルディングワーク、省察記録の書き方 講師：公益財団法人京都市ユースサービス協会 竹久 輝顕	
第2回 10月15日（日）	困難を抱える子ども・若者の総合的な理解 講師：NPO法人こどもソーシャルワークセンター 理事長 幸重 忠孝	
第3回 11月19日（日）	対人援助の背景理解、アウトリーチも含む総合的な支援実践 講師：NPO法人NPOスチューデント・サポート・フェイス 代表理事 谷口 仁史	
第4回 12月17日（日）	まちづくりの視点から子ども若者へ伴走的支援 講師：NPO法人暮らしづくりネットワーク北芝 ユースワーカー 松村 幸裕子	
第5回 2018年1月21日（日）	ワーカーとしての自分を振り返る① 講師：NPO法人TEDIC 代表理事 門馬 優、NPO法人アスイク 常務理事 鈴木 綾	
第6回 2月18日（日）	ワーカーとしての自分を振り返る② 講師：NPO法人TEDIC 代表理事 門馬 優、NPO法人アスイク 常務理事 鈴木 綾	
第7回 3月18日（日）	修了報告会	

第1部



他地域の実践者による講座

子どもを支えるユースワーク、ソーシャルワーク両方の領域の実践者を他地域から迎え、レクチャーやワークショップ形式で学ぶ。
地域の子どもの支援の現場の担

い手として、全国の先進事例の実践者から直接話を聞いて学びながら、どのように社会のリソースを活用し、支援の枠組みを組み立てていくかについての知見を学ぶ。

第2部



ケースを検討しあう実践ワーク

受講者が日々の現場で経験したケースの記録（あらかじめ個人が特定できないよう加工）を持ち寄り、その観察に対するコメントや、対応についての意見交換などを行う。

第一部の講演者が
テーブルに参加することも

参加者間だけのワークでなく、講座の事務局が事前にすべてに目を通してアドバイスをするなど、若手支援者としての実践力を身につける場に。

参加者・主催者からの声

参加者：宮城県内から20名

※母体となった3団体のほか、民間支援機関や行政関係機関からの参加者もあり。

誰かのSOSを自分事として受け取りながら、相手と一緒に進める存在になりたい。
(参加者)

今回の学び内容は、学校でも実践できるのでは？と思っている。
(参加者)

自分を「ありのまま」に認められる子ども・若者を育てられるワーカーになりたい。
(参加者)

周りを巻き込み、よりよいソーシャルワーカー環境をデザインできるワーカーになりたい。
(参加者)

後半になるほど、参加者の子どもを観察するレベルの高まりを実感した。
(運営側)



取り組みの社会発信 ファンドレイジング・日本 2018

今回の「ユースソーシャルワークみやぎ」との共同事業については、アジア最大のファンドレイジングカンファレンス「ファンドレイジング・日本 2018」（2018年3月開催）のセッションという形で活動報告も行いました。

CANPANセンター山田さんの
司会で議論が深まる！



担い手人材の育成の重要性の議論が白熱

セッションには、ユースソーシャルワークみやぎ門馬代表幹事に加えて、同じく人材育成事業に首都圏を中心に取り組むNPO法人PIECESの荒井佑介副代表、助成や評価に知見の深いNPO法人CANPANセンターの山田泰久代表理事にも登壇いただきました。子ども支援に取り組む団体や助成財団等100名以上の参加者

を前に、「地域性」「ファンドレイジング」「事業の評価」などの切り口から、実践事例を共有。

多くの団体で課題と感じながらも、実践が難しい担い手人材の育成の重要性を広く共有するとともに、助成団体を支援する側の今後の支援のあり方を考える機会にもなりました。

参加者からの声

資金調達や人材育成の話はなかなか聞けないのでよかった。
(現場団体)



受託事業では要求のレベルがどんどん高くなる一方で、現場で活動できる人材が少なくなっている。
(現場団体)



短期的に現場人材の育成は急務だが、長期的な視点での事務方人材育成も重要で、バランスが難しい。
(助成団体)



県内全域を対象に人材育成をしていく方法論に活動のヒントを得られた。
(中間支援団体)



INTERVIEW



NPO法人アスイク 常務理事
NPO法人しんせい
鈴木 綾さん

それぞれのリソースを活かした課題解決の取り組み 他地域にも応用できる活動を目指して

困難を抱える若者・子どもの支援者を育成するしくみやプログラムの整備は、介護などの他の領域と比較してまだ十分に確立されているとはいえません。そして、現場を担う若手に向けて開かれた学びや研鑽の機会となると、さらに少ないのが現状です。こうした課題に、現場の団体と周囲の専門家や中間支援団体が、時間・

予算・知見などそれぞれのリソースを活かしたサポートを行い、ひとつの課題解決に取り組んだことに、今回の大きな意義があります。

団体の現場サポートや人材育成企画にも多く関わっていますが、この活動は他地域でも活かせる観点があると感じています。

今後は「人材育成」以外の共通課題への取り組みも検討

本事業では、仙台・石巻エリアにおける、「地方」「現場・若手」に注目した活動内容となりました。今後は他地域にも応用できる観点を明確にしつつ、地域の実

態に応じた異なるモデルも考慮すべきだと考えています。

また、取り組むべき共通課題は、今回のテーマ以外にもありますので、テーマ

に応じ、適切な連携の枠組みを検討しつつ取り組みを広げていきたいと思っています。

小学生向け情報モラル啓発教室の 開発・普及

2016年度より、京都府警察本部サイバー犯罪対策課とともに、
情報モラル普及の冊子づくりに取り組んできました。

2017年度は、普及のために、
冊子の内容を指導できるプログラムづくりを進めました。



ネット利用が急速に進む中、 小学生に合った情報モラルを

2016年の内閣府の調査では、小学校高学年では、1日1時間以上インターネットを利用している児童が60%以上いることがわかっています。多くがゲームや動画をみることで使用し、SNSなどのコミュニ

ケーションの利用者も3割となっています。

そんな中、いじめや犯罪に巻き込まれることも多く、小学生の現状に合った情報モラルの普及が求められています。ベネッセこども基金でも何らかの活動をした

いと検討していたところ、京都府警察本部サイバー犯罪対策課から、お声をいただき、この取り組みがスタートしました。

冊子、安全教室のパッケージが完成し、今後はさらに普及に注力していきます。

“子どもが自らを守る力”と“地域の見守り力”を両輪で高めていく

スマートフォンなどは、子ども一人で使うことが多く、やりとりの様子が大人からは見えにくくなっています。トラブルに巻き込まれないためには、子ども自身がマナーや危険を知り、よりよく使

こなす力を身につける必要があります。また、情報モラルについては、イベント的なインプットではなく、常に安全意識を持ち続ける必要があり、身近な大人が定期的に確認できることが重要だと考え

ました。

そこで、子ども向けの冊子と、学校の先生や地域の大人が教えることができる安全教室のパッケージを、セットで開発しました。

初めてのスマホ安心ガイドブック

家庭でのルールを決められる書き込み式のルール表付き!

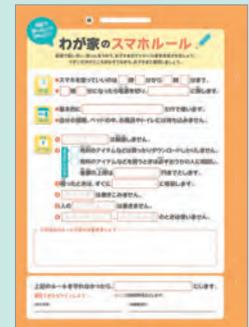
小学生と保護者のための情報モラル&マナーの冊子



スマートフォンやインターネットで特に起こりやすい12のトラブルを紹介

対象：小学校中学年以上
版型ページ数：B5 32ページ

子どもが親しみやすいビジュアル
+
考えながら学べるクイズ形式



スマートフォン・インターネット安全教室パッケージ

シナリオでは、「ポイント」「指導・声かけ例」を提示!

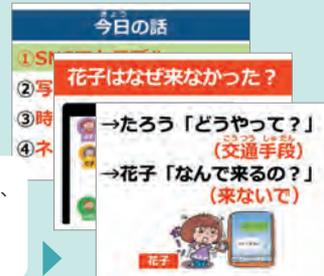
小学生に情報モラルを伝える、45分の安全教室が実施できる講師向けパッケージ



最も重要視している4つのトラブルの回避の仕方、子どもが考えながら学ぶ展開

対象：安全教室を実施する主催者や講師の方
時間：45分

投影用資料を使い、シナリオに沿って実施できる!



企画協力：京都府警察本部サイバー犯罪対策課 監修：兵庫県立大学 竹内和雄/京都府警察ネット安心アドバイザー

INTERVIEW



京都府警察
ネット安心アドバイザーリーダー
石川 千明さん

安全教室で親子一緒に学び、家庭でのルールづくりにつなげてほしい!

このプロジェクトでは、第1弾として「初めてのスマホ安心ガイドブック」、第2弾として学校や地域で誰でも使える投影用教材を制作しました。冊子は子どもたちに多いトラブル、気をつけてほしいことを、学校だけでなく家庭に持ち帰り親子で楽しみながら学べる構成に、投影用の教材は子どもたちがしっかり考え、友だち同士で相談し、みんなで助け

合える関係を築けるように制作しました。インターネットは子どもたちだけで使っている場合が多く、自分自身で善悪の判断をし、困ったときは保護者に相談できなければ失敗する可能性が高いです。子どもが失敗しないためには、ルールづくりがその第1歩になります。ご家族でご覧いただき、家庭でのルールづくりに役立つ冊子になればと思っています。

冊子はすでに、全国で4万3千部普及！

※2018年3月時点

活用者からの声

友だちと一緒になら、ネットで知り合った人と会ってもよいと思っていましたが、やめようと思いました。

(小学校6年生)

5、6年生のインターネットの単元の補助教材として使用しました。クイズ形式になっているので児童に分かりやすかったです。特に最後のページのわが家のスマホルールは、とてもよく、保護者にも紹介して話し合うよう伝えました。

(小学校教師)

最近スマホやネットの危険性についての講演会に参加する機会が増えましたが、それを子どもに伝えたくてもどこからどう話せばいいのか上手く説明できずにいたので、この本をいただけて助かっております。漫画も交え、マナーやトラブル防止、相談先まで分かりやすく記載されているので、子どもでも楽しく読めそうです。最後のスマホルールのページも、ルールが明確になってとても良いと思いました。

(小学校PTA担当者)

先生からの質問に
元気に答える
子どもたち



京都市では、公立小学校の4年生全員が活用

京都市教育委員会より、夏休みの前に、市内の小学校4年生全員に冊子を配布したいという声をいただき、各学校にお届けしました。

京都市立二条北小学校では、2017年7月11日の学年会で、冊子に沿って情報

モラルの学習をしました。クイズに答えたり友だちと話し合ったりしながら、スマートフォンやインターネットを使う時に、どういう心構えを持つべきかを学びました。

CLOSE UP

京都府警察より 感謝状を いただきました！



京都府警察本部
サイバー犯罪対策課
志賀 定紀課長

京都府警察本部サイバー犯罪対策課では、以前よりサイバー犯罪の検挙やサイバー犯罪被害防止活動に取り組んでいましたが、平成26年春から、青少年を取り巻くネット問題等に知見を有する学識者、IT企業社員等を「ネット安心アドバイザー」として登録し、警察とアドバイザーのそれぞれの知見を活かした活動をしてきました。講演資料を共同制作して、府内高等学校等において講演活動を行うなど、先進的で効果的な産学官連携によるサイバー犯罪被害防止対策を展開しています。そ



京都府警察からいただいた感謝状



ネット安心アドバイザーとの検討の様子

の活動の一環として、小学校に対する取り組みを模索していたところ、同じ問題意識を持ったベネッセこども基金様と出会い、小学生向け冊子「初めてのスマホ安心ガイドブック」や講演教材を協働して開発することができました。その感謝の意を込め、この度表彰状をお贈りしました。

ベネッセこども基金様と連携した青少年への情報モラル活動をさらに推進していきますので、これからもよろしく願いいたします。

冊子・安全教室パッケージのお申し込み方法

学校での安全教室など、非営利の活動でご活用いただける場合、「初めてのスマホ安心ガイドブック」「スマートフォン・インターネット安全教室」のパッケージはすべて無償でお届けしています。

※送料はご負担いただけます。

「公益財団法人ベネッセこども基金」
安心・安全窓口

電話：04-7137-2570

FAX：03-6368-9995

(祝日・年末年始を除く月～金 10:00～17:00)

子どもの安全
サポーターズひろば

FAXで送付できる申込書や詳細は、「子どもの安全サポーターズひろば」からご確認ください。活動事例もご紹介しています。

子どもの安全サポーターズ

検索

<https://benesse-kodomokikin.or.jp/activity/anzen/index.html>

2017年度 活動概況と2018年度 方向性

2017年10月、ベネッセこども基金は設立丸3年を迎えました。

この間、各テーマにおいて先進的な取り組みのある団体や病院、大学などとの連携により、学びのプログラムやモデルづくりに取り組んでまいりました。2017年度は、特集でもご紹介している通り、これまでのトライアルが具体的な成果として結実した年でした。

また助成事業につきましても、個々の団体への支援だけでなく、団体との接点から把握した、共通課題を解決するための新たな事業にも着手しました。

2018年度は、これまでの成果を踏まえ、新たなフェーズへの一歩を踏み出す年として位置づけ、子どもたちにとってさらに意義ある活動を目指してまいります。

活動全体像とテーマ

下記の活動テーマで、「自主事業」と「助成事業」を組み合わせながら、子どもの学びの機会支援とそのための環境づくりに取り組んでいます。

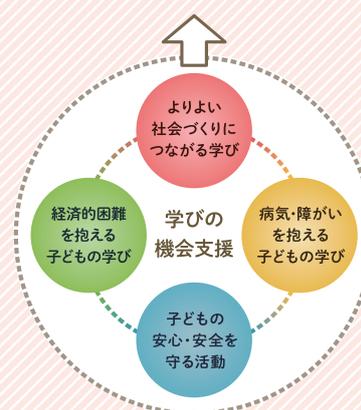
自主事業

ベネッセこども基金自らが、事業を企画・実施し子どもたちを支援

助成事業

地域で、テーマに沿った子ども支援に取り組む団体への助成を通じて、子どもたちを支援

子どもが自らの可能性
広げられる社会



活動テーマ	自主事業	助成事業
<u>子どもの安心・安全を守る活動</u>	○	
<u>経済的困難を抱える子どもの学び支援</u>	○	○
<u>重い病気や障がいを抱える子どもの学び支援</u>	○	○
<u>よりよい社会づくりにつながる学び支援</u>	○	
<u>(災害支援) 被災地の子どもたちの学びや育ちの支援</u>		○

※災害発生時の緊急支援及び復興支援

子どもの安心・安全を守る活動

子どもの安心・安全な環境づくりのためには、「子どもが自分自身を守る力を高めること」と「地域の見守り力を高めること」の両輪が必要です。

専門家とも連携し、地域で活動する方々が直接指導できる教育プログラムの開発や、活動する方々のサポートに取り組んでいます。

教育プログラムの開発・普及

防災



防災教育紙芝居
「じしんのときの おやくそく」
のべ9,000以上の
保育園・幼稚園で活用

防犯



小学生と保護者のための「子どもの安全・安心ハンドブック」と安全教室実施パッケージ
全国の学校や地域で約6.4万部活用

情報モラル



小学生と保護者のための「初めてのスマホ 安心ガイドブック」と安全教室実施パッケージ
⇒P11～13掲載

※活用数はすべて2018年3月時点

2017年
NEW

情報発信でのサポート



サイトの
リニューアルで、
プログラムの
お申し込みが
簡単になりました！

安全力の向上を目指す方への情報発信サイト
「子どもの安全サポーターズ広場」
<https://benesse-kodomokikin.or.jp/activity/anzen/index.html>

2018年度は



小学生向けのプログラムを充実させることができたので、より多くの方に活用いただけるよう、普及拡大を目指します。見本送付や講師向け研修など、広くプログラムの認知を高め、必要としている方にお届けできるようにしていきます。

経済的困難を抱える子どもの学び支援

日本において深刻化する社会課題である「子どもの貧困」に対する取り組み。主には助成事業を通じて、地域での活動を支援するとともに、助成団

体相互のノウハウ共有やネットワーク化にも努めています。加えて自主事業として、団体共通の課題解決のモデルづくりにも取り組んでいます。



2018年度は



引き続き「担い手人材の確保・育成」のモデルづくりに取り組むと共に、新たなテーマとして、「支援現場における学びの質向上」のための活動をスタートします。

重い病気や障がいを抱える子どもの学び支援

重い病気や障がいによって、学びに対するサポートを必要としている子どもとその保護者に対して、病院・学校・活動団体や専門家等と連携し、

有効な学びのモデルづくりや情報提供などを通じた支援を行っています。

院内学級での学び支援プロジェクト



東京都内の特別支援学校4校と連携し、分身ロボットOriHimeを活用した学び支援プロジェクト

特別支援学校・校長会での成果発表など、社会発信も!



発達障がいがある子どもの学び支援

情報提供による支援



発達障がい支援サイトエール＆リンク
<https://benesse-kodomokikin.or.jp/activity/yellandlink/index.html>

リアルな場での支援



発達障がい支援ワークショップ「音と光の動物園」⇒P3～6掲載

2018年度は



引き続き、有効な学びモデルづくりや情報提供などを行いながら、支援者を広げるために社会発信の強化を検討します。発達障がい支援ワークショップは、全国への展開を予定しています。

よりよい社会づくりにつながる学び支援

「ソーシャルリーダーシップ」＝「地域やコミュニティに主体的に関わり、社会をよりよくしていく一人としての役割を果たすことができる力」であり、

未来を生きる子どもたち全員に必要な能力であると定義。先進的な取り組みがある団体と連携しながら、よりよい社会をつくる子どもたちを育成。

親子でチャレンジ国際理解! ちびっこおえかきコンテスト



「親子でチャレンジ国際理解!ちびっこおえかきコンテスト」
[認定NPO法人グッドネーバース・ジャパン連携]
就学前の子どもたちが、発展途上国の問題について学ぶ教育プログラム。
入賞作品は専用サイトからご覧いただけます。
<http://chibikko-oekaki.org/5th/>

2017年度結果
応募数 1,840 作品
参加数 101 園
2月17日の表彰式には、受賞した園児 34 名とご家族や園の先生など約 100 名が参加されました。



国際パラリンピック委員会公認教材「I'mPOSSIBLE日本版」



全国の小中高特支学校に配布する教材を1年かけて開発、制作し、2018年6月に届けました。

国際パラリンピック委員会公認教材「I'mPOSSIBLE日本版」
[公益財団法人日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会/日本財団パラリンピックサポートセンター連携]
共生社会を目指す教材を共同開発し、全国の小中高特支学校にお届け。

「高校生英語ディベートチームジャパン派遣プログラム」[一般社団法人全国高校英語ディベート連盟国際委員会連携]なども実施

2018年度は



2017年度までのテーマは踏襲。国際パラリンピック委員会公認パラリンピック教材は、2019年春に向けて、小学生版第3弾、中高校生版第2弾を制作します。さらに、当財団の強みを活かせるテーマでの新規の取り組みも検討していきます。

助成事業

2017年度テーマ

重い病気を抱える子どもたちの学び支援活動助成

経済的困難を抱える子どもたちの学び支援活動助成

災害地の子どもたちの学びや育ちの支援活動助成

各テーマともに、課題解決に向けた問題提起やユニークな視点を含んだ企画であり、同じ課題に取り組む人たちが参考にできるモデルとなることが期待できる活動を対象として助成を行っています。

→助成実績はP18~20

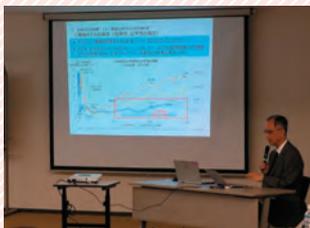
助成団体相互のノウハウ共有やネットワークづくり支援

【重い病気】団体交流会

2017年6月12日(月)～13日(火)

1日目 ベネッセこども基金 五十嵐隆理事長講演
「これからの小児医療と小児保健」
各団体からの活動報告、懇親会

2日目 視察 株式会社オリィ研究所



- ・五十嵐理事長より、小児医療の諸外国の違いや先進事例などを共有。ふだん聞く機会がない話に、参加者の満足度は高かった。
- ・活動報告では質疑応答の時間を多くとり、じっくり意見交換。各団体の悩みに対して他団体からの実践的アドバイスが多く寄せられた。

【経済】【災害地】団体交流会(2テーマ合同)

①2017年 11月29日(水)～11月30日(木)

②2017年 12月18日(月)～12月19日(火)

1日目 各団体からの活動報告、
共通課題の抽出、懇親会

2日目 共通テーマ・課題についての
グループディスカッション

※ NPO法人エティックが
ファシリテーターとして参画



- ・ディスカッションのテーマは「人材育成」「アウトリーチ」「学びの質とは」「広報活動」など。
- ・各自関心のあるテーマを選択したグループに分かれて実施。ファシリテーターが論点を整理することで、議論が深まり、持ち帰って自団体に生かしたいといった声も聞かれた。

2018年度の助成事業の方向性

3か年の助成事業を実施する中で、様々な気づきを得ました。より地域ごとの多様性をふまえた戦略性・モデル性のある取り組みの創出ができるよう、2018年度から新たな助成プランをスタートします。左記2テーマの募集を予定しています。

重い病気を抱える子どもの学び支援活動助成

経済的困難を抱える子どもの学び支援活動助成

2017年度 助成団体一覧

重い病気を抱える子どもたちの学び支援活動助成

概要

・募集期間：2017年7月1日～2017年8月31日 ・助成対象期間：2018年1月1日～12月31日
 ・応募数：18件 ・採択事業数：8件 ・金額：計11,051,210円

助成団体および対象となる事業（50音順）

助成先団体名	申請事業名	都道府県	助成金額 (円)
特定非営利活動法人 絵本カーニバル	長期に入院する子どもたちに、絵本とワークショップを通じて学習体験とコミュニケーションを届けるプロジェクト	東京都	1,680,000
特定非営利活動法人 OnPal	重い病気で入院する子どもを対象とした音楽授業等の実施と他地域への展開	福岡県	900,000
一般社団法人 こどものホスピスプロジェクト	重い病気を抱える子どものための、体験型のまなびプログラムの環境整備事業	大阪府	1,500,000
特定非営利活動法人 チャイルド・ケモ・ハウス	重い病気を抱える子どもとその家族への遊ぶ機会、学ぶ機会を届けるボランティアスタッフ派遣事業	兵庫県	1,732,000
認定特定非営利活動法人 ポケットサポート	自宅療養中の病弱児と学習支援者を双方向Webで結ぶ学習支援事業	岡山県	1,650,400
特定非営利活動法人 ミュージズの夢	子どもたちの芸術分野（音楽・アート）の学び・遊びをサポートする人の育成と派遣	宮城県	792,510
特定非営利活動法人 み・らいず	医療的ケアが必要な子どものイベントと保護者向け、支援者向け研修会	大阪府	1,194,000
特定非営利活動法人 ラ・ファミリエ	高校生を中心とした入院中及び復学支援者育成	愛媛県	1,602,300

経済的な困難を抱える子どもたちの学び支援活動助成

概要

・募集期間：2017年11月20日～2018年1月5日 ・助成対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日
 ・応募数：77件 ・採択事業数：12件 ・金額：20,568,734円

助成団体および対象となる事業（50音順）

助成先団体名	申請事業名	都道府県	助成金額 (円)
認定特定非営利活動法人 茨城NPOセンター・コモンズ	不登校、不就学を防ぐため外国籍児童生徒などを 対象にした学びの場作り	茨城県	1,980,000
特定非営利活動法人 いるかねっと	市営団地における小中学生を対象にした 居場所事業「まなび場」の創設	福岡県	2,000,000
特定非営利活動法人 仕事工房ポポロ	義務教育終了後に社会との接点を失い、 適切な学習環境を得られていない子ども・若者への 支援事業	岐阜県	2,000,000
特定非営利活動法人 STORIA	子どもの「社会情緒的スキル（非認知的スキル）」を 育む体験学習プログラムの開発及び保護者の子育て スキルアップ事業	宮城県	1,802,300
特定非営利活動法人 ハーフタイム	葛飾区における生きづらさを抱えた子どもたちへの 寄り添い事業	東京都	1,272,500
特定非営利活動法人 HUG for ALL	【児童養護施設 児童向け】学習支援・進路支援事業	東京都	1,940,000
認定特定非営利活動法人 浜松NPOネットワークセンター	はままつ子どもの学び支援&セーフティネット強化事業2018	静岡県	2,000,000
ブルーミングネットワーク/ TEAM	高校生による学習塾運営と地域振興活動の推進	東京都	1,800,000
一般社団法人 みらいTALK	生活困窮家庭学習支援事業	静岡県	1,160,000
特定非営利活動法人 もりおかユースポート	学びとくらしの力を育む学習プログラム	岩手県	2,000,000
特定非営利活動法人 山科醍醐こどものひろば	学校連携・地域福祉型学習支援モデル推進事業	京都府	1,123,934
特定非営利活動法人 ユースコミュニティ	経済的ハンデを抱える高校生世代の学習支援事業	東京都	1,490,000

災害地の子どもたちの学びや育ちの支援活動助成

概要	・募集期間：2017年11月20日～2018年1月5日 ・助成対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日
	・応募数：52件 ・採択事業数：8件（東日本大震災対象7件 熊本地震対象1件）
	・金額：15,199,050円

助成団体および対象となる事業（50音順）

助成先団体名	申請事業名	都道府県	助成金額 (円)
特定非営利活動法人 アスイク	多賀城市におけるケアワーク型居場所の運営と ノウハウ移転	宮城県	2,000,000
Wendyいわき	子育て世代を対象とした食育交流・相談会の開催	福島県	465,000
一般社団法人 子どものエンパワメント いわて	平成29年度「学びの部屋」リニューアルプロジェクト	岩手県	2,000,000
特定非営利活動法人 さくらネット	子どもによる震災体験の語りつぎによりそう ～熊本地震「心のケアと一体的に進める防災教育」の ネクスト～	兵庫県	2,000,000
特定非営利活動法人 3.11こども文庫	こども文庫『にじ』の運営と絵本のつどい、 アートワークショップの実施	福島県	1,992,050
一般社団法人 Bridge for Fukushima	高校生向け次世代リーダー育成事業 ～PBL（プロジェクト型学習）及び実践型インターン を用いた人材育成～	福島県	2,742,000
一般社団法人 まなびの森	宮城県山元町の子どもたちを対象とした学習支援事業	宮城県	2,000,000
特定非営利活動法人 亘理いちごっこ	亘理こどもサポート事業	宮城県	2,000,000

2017年度 決算報告

貸借対照表の要旨(2018年3月31日現在)

資産の部		科目	金額	負債の部		科目	金額
資産の部	1	流動資産	65,476,578	負債の部	1	流動負債	16,592,162
		現金預金	64,003,377			未払金	16,576,577
		貯蔵品	1,473,201			預り金	15,585
	2	固定資産	310,858,321	負債の部合計	16,592,162		
		特定資産(事業積立資産)	306,490,585	財正味の部	1	指定正味財産 (うち特定資産への充当額)	306,490,585 (306,490,585)
その他固定資産(ソフトウェア)		4,367,736	2		一般正味財産	53,252,152	
資産の部合計			376,334,899	正味財産の部合計		359,742,737	

正味財産増減計算書の要旨(2018年3月31日現在)

科目		当年度	前年度	増減	
I. 一般正味財産増減の部	(1) 経常収益	140,385,529	165,484,455	-25,098,926	
	受取寄付金	136,487,521	165,480,494	-28,992,973	
	受取寄付金	6,293,645	6,831,902	-538,257	
	受取寄付金振替額	130,193,876	158,648,592	-28,454,716	
	雑収益	3,898,008	3,961	3,894,047	
	(2) 経常費用	139,647,439	151,811,742	-12,164,303	
	事業費	120,385,529	135,484,455	-15,098,926	
	支払助成金	47,828,994	68,116,806	-20,287,812	
	給料手当	21,647,229	20,435,005	1,212,224	
	委託費	10,785,671	12,565,090	-1,779,419	
	制作費	8,771,426	7,669,503	1,101,923	
	賃借料	8,676,625	5,872,406	2,804,219	
	その他事業費(通信運搬費、支払負担金など)	22,675,584	20,825,645	1,849,939	
	管理費	19,261,910	16,327,287	2,934,623	
	給料手当	5,411,811	5,108,754	303,057	
	賃借料	2,238,182	3,281,056	-1,042,874	
	制作費	2,990,376	2,132,087	858,289	
	委託費	3,713,278	1,958,131	1,755,147	
	法定福利費	854,177	828,025	26,152	
	その他事業費(ソフトウェア償却費、報酬など)	4,054,086	3,019,234	1,034,852	
	評価損益等調整前当期経常増減額	738,090	13,672,713	-12,934,623	
	評価損益等計	0	0	0	
	当期経常増減額	738,090	13,672,713	-12,934,623	
	2. 経常外増減の部	(1) 経常外収益	0	0	0
		(2) 経常外費用	0	0	0
		当期経常外増減額	0	0	0
		税引前当期一般正味財産増減額	738,090	13,672,713	-12,934,623
当期一般正味財産増減額		738,090	13,672,713	-12,934,623	
一般正味財産期首残高		52,514,062	38,841,345	13,672,713	
一般正味財産期末残高	53,252,152	52,514,062	738,090		
II. 指定正味財産増減の部	受取寄付金	150,000,000	154,908,500	-4,908,500	
	一般正味財産への振替額	-130,193,876	-158,648,592	28,454,716	
	当期指定正味財産増減額	19,806,124	-3,740,092	23,546,216	
	指定正味財産期首残高	286,684,461	290,424,553	-3,740,092	
	指定正味財産期末残高	306,490,585	286,684,461	19,806,124	
III. 正味財産期末残高	359,742,737	339,198,523	20,544,214		

団体概要

※2018年7月現在

名称 **公益財団法人 ベネッセこども基金**

所在地 〒206-8686
東京都多摩市落合1-34

設立年月日 平成26年（2014年）10月31日
※公益財団法人移行日：平成27年（2015年）4月1日

役員

代表理事・理事長 **五十嵐 隆** 国立成育医療研究センター 理事長

代表理事・副理事長 **福原 賢一** 株式会社ベネッセホールディングス
代表取締役副会長

理事 **耳塚 寛明** お茶の水女子大学 教授（教育社会学）

理事 **小見山 智恵子** 東京大学医学部附属病院
病院長補佐・看護部長

理事 **青柳 光昌** 一般財団法人社会的投資推進財団 代表理事

理事 **岡田 晴奈** 株式会社ベネッセホールディングス 上席執行役員
グローバルこどもちゃれんじカンパニー長

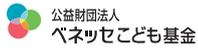
監事 **尾尻 哲洋** 税理士

評議員

評議員 **高野 一彦** 関西大学社会安全学部・
大学院社会安全研究科 教授

評議員 **宮城 治男** 特定非営利活動法人エティック
代表理事

評議員 **増本 勝彦** 株式会社ベネッセホールディングス 執行役員
財務・コミュニケーション統括本部長



<https://benesse-kodomokikin.or.jp>

公益財団法人ベネッセこども基金の活動全体を紹介するサイトです。助成の応募情報などもこちらからご覧ください。



<https://benesse-kodomokikin.or.jp/activity/anzen/index.html>

子どもが自らを守る力を伸ばしたい、子どもの安全を見守る地域づくりに取り組みたい、そんな思いを持つ皆さんのための安全活動支援サイトです。



<https://benesse-kodomokikin.or.jp/activity/yellandlink/index.html>

発達が気になるお子さまをお持ちの保護者のかたや、そのサポートに取り組む方々を応援する発達障がい支援サイトです。



<http://chibikko-oekaki.org>

ベネッセこども基金と認定NPO法人グッドネーバース・ジャパンが共同事業として行っている、親子で国際理解について学ぶ教育プログラムの専用サイトです。

